若者よ！世界にでよう！

ドイツ日記

～その4：ドイツの親切～

ドイツ連邦
物理工学研究所
山口敦史
Atsushi Yamaguchi

私たちの体験した親切 1

今回は，ドイツの親切についてお話したいと思います．まずは，私たち夫婦が体験したドイツでの親切の例をいくつか挙げてみます．

ある日，妻が朝のごみ捨てに行くとき，ごみの量が多く手がふさがっていたことがありました．すると，たまたま近くを通りかかった見ず知らずの青年が，わざわざ妻のために建物の出口のドアを開けてくれたそうです．更にその青年はごみ捨て場まで付いてきてくれて，ごみ捨てボックスの蓋を開けてくれたそうです．また，ある有名な喫茶店を探していたときのことです．私たちは近くと思われる場所をあちこち探し回ったのですが，どうしても目的の喫茶店が見つかりません．仕方なくたまたま目に入った近所の家の方に場所を伺ったところ，歩いて数分のところにあると教えてくれました．しかしそれだけでなく，その方は私たちのためにわざわざそこから喫茶店の前まで一緒に歩いて案内してくれました．また，高速鉄道 ICE でベルリンから帰ってきたときのことです．私たちの乗る予定だった電車は故障で車両が交換されることになり，指定席が全てキャンセルになったり，1 時間遅れてベルリンを出発したり，いろいろと混乱していました．ドイツ語の分からない私たちには，そもそも乗っている電車が目的地に向かっているのかどうかすらもよく分からないという状況でした．しかし，そんな不安そうにしている私たちに，何人ものドイツ人の方たちが，英語で状況を丁寧に説明し助けてくれました．車内での検札の際にも，車掌が私たちに向かってドイツ語で何かを説明していると「車掌さん，英語で説明してあげて！」とすかさず助け舟を出してくれました．当時はまだドイツに来て間もない頃で不安で一杯だったこともあり，それらの親切にはとても助けられました．

これらは私たちがドイツで体験した数々の親切のごく一部に過ぎません．小さな親切まで入れたら，数えきれないほどの親切を体験してきました．もちろん私たちは，日本でも日常生活の中で数々の親切を経験してきました．しかし，ドイツの親切は日本のそれとは少し性質が違っていて，一歩踏み込んだより積極的な親切だと思うのです．

親切に必要なもの 2

例えばドイツに来る前の私が，前述の例で逆の立場だった場合，ここまでの積極的な親切が全部できたかと言われると，あまり自信がありません．それは，たとえ親切のためとはいえ，見ず知らずの他人にこちらからあれこれ干渉するという行為に，どうしても抵抗があったからです．それは，助けが必要ならまず自分からこちらに助けを求めてくるだろう，そうでもないのに下手にこちらから手出しをしたら余計なお世話になりかねない，と思っていたからです．しかし，実際に体験すれば分かるのですが，積極的な親切が余計なお世話になることなどほとんどないのです．少なくとも私の場合，今までドイツで受けた親切は，どれも嬉しいものばかりでした．そして，ドイツに来てもうすぐ 1 年が経とうとしている今では，私も前より自分から他人に進んで親切にするよう意識するようになりました．そしてその過程で，私はドイツ式の積極的な親切を実現するのに重要な二つのことを発見しました．

まず一つ目は，常に自分の周囲をよく観察することです．例えばバスでお年寄りに親切にしようと思ったら，まずお年寄りの存在に気付かなければ何も始まりません．これは当たり前のことなのですが，積極的に親切をしようと思ったら，かなり意識して自分の周囲を観察する必要があります．ドイツに来て以来，私は以前よりもずっと注意深く自分の周りを観察するよう

 © 電子情報通信学会 2012

になりました．例えば誰かとエレベータで一緒になったら，その人がどういう状況か，大きな荷物を持っていないか，ちょっとした助けを求めるシグナルを出していないか，（失礼のない範囲内で）よく観察するようになりました．そして，相手が助けを必要としているようなら，見て見ぬふりをせず，迷わず手を差し伸べます．これは，最初はなかなか勇気が要りますが，何度か繰り返して相手に喜んでもらえると，だんだん抵抗なくスッとできるようになってきます．

しかし，積極的な親切を実現するには，提供するだけでは駄目なのです．もう一つの重要な点，それは親切を提案された側が，素直にその親切を受け取ることです．どんな積極的な親切でも，相手に受け取ってもらえなければ成立しません．ドイツに来て最初の頃，私はドイツ人の同僚に親切な提案をしてもらったとき，実はかなりの回数丁重に断っていました．そんなに親切にしてもらうのは，何だか悪いと思っていたからです．そのせいで，せっかくの親切を何度も台なしにしてしまったのかと思うと，今でも恥ずかしくなります．親切を提案したのに素直受け取ってもらえなかったという経験をしたら，中には次から親切を提供するのをためらってしまう人もいるかもしれません．そうなってしまったら，積極的な親切の実現は難しくなるばかりです．親切は，素直に「ありがとう．是非お願いします.」と受けるのが良いのだと思います．そして，自分が役に立てることがあればそのとき快くお手伝いすれば良いだけのことで，私のように悪いのではないかなどと考えすぎることはないのです．

以前，あるレストラン評論家の本を読んだとき，次のようなことが書いてありました．高級レストランでは最高級のサービスを提供してくれます．しかし，そのサービスが成立するには，客の側にもそれを受けるに値する器が要求されるのです．食事のマナーが守れていなかったり，つまらなさそうにしていたり，会話はネガティブな話題ばかり…そのような客では，せっかくの最高級のサービスが台なしです．これはレストランでのサービスの話ですが，私は親切にも似たようなことが言えると思うのです．親切を提供してもらったら，それを素直に受け入れる器が大事だと思うのです．例えば，重い荷物を持ってバスに乗ろうとしたとき，たくさんの人が助けようとしてくれているのに，「自分でやりますから結構です.」と意地を張り，苦労してその荷物を担ぎ込んでいたら，それはスマートでないばかりかむしろ見苦しくなってしまいます．更には親切を提案したほうも，気まずい気分になってしまいます．

特にこの二番目の，親切を上手に受ける，という点を私はあまり教えられてこなかった気がします．「他人には親切にしましょう！」というのはよく耳にしますが，「他人の親切は素直に受けましょう！」というのはあまり聞いたことがありません．しかし，上に述べたように，積極的な親切を実現するには，どちらも同じ比重で重要だと思うのです．そして，ドイツ人は，親切の提供はもちろん，この親切の受け方も実に上手なのです．ドイツ人に対して親切を提案すると，気持ち良くすっと受け入れてくれるので，こちらもとても気分が良くなります．そして，親切のやり取りを経て送り側と受け側の両者が感じるこの気持ち良さ，それがお互いに次の積極的な親切への原動力となっているのではないでしょうか．

最　後　に

3

今回はドイツの親切についてお話しました．最後に，親切にちなんで私の職場での出来事を一つ紹介しましょう．

私の職場のあるグループが，数年前に，原子時計の性能を大きく向上させる画期的な手法を提案しました．そして，それをあらゆる国際会議・論文などで何度も発表して宣伝していました．当然，その実現を目指して実験も進めてきました．しかし最近，アメリカの別のグループが，全く同じ手法を使って先に実験を成功させてしまったのです．グループ内では，衝撃的なニュースでした．そのニュースを聞いて，私は「残念だったね．でも何で彼らはすぐにできたのだろうね？」とドイツ人の同僚に聞いたところ，彼の返事は以下のようなものでした．「うちのグループがいろいろな場所で発表しすぎたのだと思う．あれだけ発表すれば，後は実験するだけだもん．そういう意味では，うちのグループは，少し親切すぎたのかもしれないね.」